

## 2024 年度 FD 活動評価点検報告書

### 1. 中部大学の FD 活動組織について

本学における教育活動・改善に向けた教員の資質向上策としての FD (Faculty Development) 活動は、図 1 のように、学長を委員長とした全学 FD・SD 委員会のもと、各学部 FD 委員会および各学科組織があり、全学体制の FD 活動ワーキングが中心となって種々の検討を行っている。また、教育活動顕彰審査選考委員会や FD 活動評価点検委員会が組織されており、FD 活動の内容について評価できる体制が整っている。なお、全学 FD・SD 委員会および学部 FD 委員会は、2007 年度まで本学に設置されていた FD 推進委員会および学部での FD に関する諸活動をそれぞれ 2008 年度より新しく改変した組織である。また、主管部署として、大学企画室高等教育推進部（教員 2 人、大学企画部職員で構成）が FD 活動の推進・支援を行っている。

さらに、「大学設置基準等の一部を改正する省令」が 2017 年 4 月 1 日から施行され、SD (Staff Development) が義務化されたことを受けて、本学の教員・職員のキャリア形成を図る組織的な取り組みを推進するため、2019 年度に全学 FD 委員会を全学 FD・SD 委員会に再編し、その専門委員会として SD 活動 WG を新たに設置した。全学 FD・SD 委員会により企画・開催される FD プログラムは、大学教育を支援する職員の SD プログラムとしても機能しており、職員も教員と共に参加することで自らの職務遂行上の資質向上に役立てている。

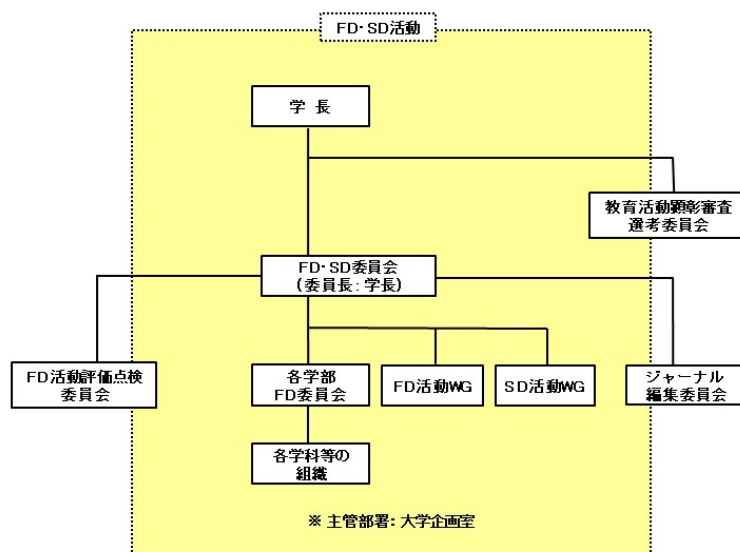


図 1 中部大学の FD・SD 活動組織図

**FD・SD 委員会**：本学の FD・SD 活動全般について、学長を委員長として審議、検討をする。

**FD 活動 WG**：FD・SD 委員会の専門委員会として、学部代表の FD 委員を中心に主に全学的な活動を企画する。

**SD 活動 WG**：FD・SD 委員会の専門委員会として、SD 活動の全学的な推進を図る。

**FD 活動評価点検委員会**：本学の FD 活動全般について、第三者的な立場にたって評価点検をする。

**教育活動顕彰審査選考委員会**：教育活動顕彰制度に係る重要事項、および受賞者の審査、選考する。

**ジャーナル編集委員会**：FD・SD 委員会の専門委員会として、高等教育（大学教育）全般に関する研究成果、および本学での教育に関する分析研究、実践報告等を学内外に発表するために『中部大学教育研究』を発行する。

## 2. 本学の FD 活動評価点検の対象

本学の FD 活動は、次の表に示すように 3 つの観点から分けられる。広義の FD 活動の目的となりうる「カリキュラム改善」や「組織の整備・改革」に関する諸活動は、FD・SD 委員会の所掌事項でないため、これらを目的とした活動（網掛け部）は、本報告書の内容には含めていない。なお、授業担当者による個々の授業改善活動は、「教員活動重点目標・自己評価シート」と「学生による授業評価、教員による授業自己評価」によって実施され、後者は学内向けにホームページ上で公開されている。

表 1 3 つの観点でみた中部大学の FD 活動

【※1】 3 つの観点でみた中部大学の FD 活動（網掛け項目は除外する項目を表す）

目的別にみた FD 活動	対象別にみた FD 活動	形式別にみた FD 活動
1) 授業・教授法の改善	1) 全学対象	1) 会議（※2）
2) 教員の資質向上（研究交流を含む）	2) 学部・研究科対象	2) 講演・報告会形式
3) FD 活動の企画・運営など	3) 学科・教育科対象	3) ワークショップ形式（※3）
カリキュラム改善	（※1）非常勤講師を含む	4) 制度・システムの構築や改良、出版など（※4）
組織の整備・改革	（※1）学生を含む	
	授業担当者	

（※1）：対象別分類の 1)～3)の活動の中で、非常勤講師を含む、学生を含む場合

（※2）：形式別分類の 1) 会議は、複数担当者による授業科目の内容等に関する打ち合わせ等は含めない。

（※3）：形式別分類の 3) ワークショップ形式の活動の中には、懇談会・相談会等の双方向型の活動を含む。

（※4）：授業評価システム、授業改善アンケートの制度の運用やシステムの構築や改良、および出版などが該当

## 3. 2024 年度の FD 活動の重点目標

FD 活動の重点目標を『魅力ある授業づくり』とすることが 2008 年度の FD 委員会で決定された。以降現在に至るまで、これを重点目標に掲げ、以下の考え方をもとに FD 活動を進めてきた。

『魅力ある授業づくり』は、学生と教員が協同して行うものです。

魅力ある授業・・・（学生にとって）興味を持って聴ける授業、将来において役立つ授業  
（教員にとって）学生の成長を実感できる授業、学生から感化を受ける授業  
授業づくり・・・（学生が目指す）自主的に学ぶ態度、知識・技術の修得  
（教員が目指す）授業改善、授業スキルアップ  
（学生と教員が目指す）双方向のコミュニケーション

本学では、評価点検の結果から改善を繰り返し、個人レベルから、学部学科を越えたグループ、学部学科、全学を対象に活発な FD 活動を進めてきた。こうした中、教育実践現場である各学部では、以下のような FD 活動の目標設定を行い、FD 活動に積極的に取り組んだ。

### （1）工学部・工学研究科

FD 講演会、FD フォーラム、FD カフェ等に積極的に参加し、『魅力ある授業づくり』を理解し着実に実行するための組織的サポートを行う。

1) 「中部大学教育活動顕彰制度 受賞者による講演会」を開催し、受賞者より『魅力ある授業づくり』について講演頂き、各教員の『魅力ある授業づくり』の一助とする。

2) 「魅力ある授業づくり」に相応しい話題を見つけ、工学部 FD 講演会として随時開催する。

- 3) 全学公開授業、授業サロン、FD カフェ、キャリアアッププログラムなど、学内で開催されるセミナー等への参加を強く推奨し、工学部内での情報共有を図り、各教員の「魅力ある授業づくり」の一助とする。
- 4) 「CU ルーブリックライブラリ」「Cumoc」を積極的に活用し、授業に反映させ「魅力ある授業づくり」に努める。

## (2) 経営情報学部・経営情報学研究科

### 1) 『魅力ある授業づくり』に関する目標

#### ①全学 FD 活動への参加の勧奨

『魅力ある授業づくり』に関して、全学レベルの FD 活動（FD 講演会、授業サロン、全学公開授業など）への学部教員の参加を勧奨する。

#### ②授業改善活動の推進

- ・初年次教育の経験交流会の実施を継続して、スタートアップセミナーの授業実施にかかわる意見交換と情報共有をすすめる。
- ・入学前教育の結果報告会を実施するとともに、結果データを個別指導並びに全体の教育改善に活用する。
- ・教員の教育能力向上に資するため、教育活動顕彰制度受賞者による講演会などの学部 FD 活動の実施を検討する。
- ・学生の授業評価、教員の授業評価やコメントへの回答の回答率を向上させる取組を行うと共に、教員は「授業評価」をもとに各自、授業改善に努める。
- ・授業における ICT 活用を推進するため、リモート授業の質向上、タブレット教育推進などに関する勉強会等を実施する。

#### ③学生指導の対応力向上と仕組みの構築

- ・配慮を必要とする学生についての教員間の情報共有ならびに支援のあり方について検討をすすめる。
- ・学部独自の学生支援体制の構築・改善を進める。

### 2) 学部 FD 講演会の実施

- ・学部教育能力向上を目的に外部講師を招いて講演会を実施する（学部教員の ICT 活用能力向上など）。
- ・教員の資質向上を目的に外部講師を招いて講演会を実施する（ハラスメントの防止・対策など）。
- ・学生募集関連での FD 関連行事(入試動向の講演会、併設校との意見交換会など)の実施を検討する。

### 3) 産業経済研究所と連携した FD 活動

研究の情報交換、共同研究のネットワークづくり、研究のブラッシュアップの場として、外部講師による講演会を実施し、教員の資質向上に努める。

### 4) (大学院) 学生の授業評価に基づいた授業内容の改善

授業アンケートにより得られた学生からの意見を研究科所属教員全員で共有する機会を設けるとともに、各自が授業内容の改善及び大学院教育の充実に努める。

## (3) 国際関係学部

教員による授業内容や方法の改善・向上（FD）を通じた『魅力ある授業づくり』は、本学が重視する「研究力」の充実・向上と表裏一体の関係にある。引き続き社会へ積極的に発信する

ことが志願者増加や授業の魅力向上につながるとの認識に立って、活動を推進したい。

#### 1) 授業・教授法の改善

- ①学生と教員が協働して創出する新しいスタイルの授業「ハイブリッド・プロジェクト」は、国際学科発足後 9 年目を迎える。2025 年度の 10 年目に向けて、さまざまな年次の学生でチームを構成し、課題に取り組むなど、新たな学びのスタイルを考案していく。
- ②低学年向け演習系科目に関しては、「コーディネーター」制の導入により学生の細かな学習状況把握が可能となったが、内容については「ハイブリッド・プロジェクト」と同じくリニューアルの時期に来ている。問題点や改善点を洗い出し、より早い段階から各自の興味に応じた学びの機会を設けるなど、内容の更なる充実を図る。
- ③「卒業研究」については、2022 年度に制作したルーブリックライブラリを「卒論中間発表会」の実施や「優秀卒業論文賞」の選考過程において活用したが、教員から寄せられた意見を参考に、改善していく。

#### 2) 研究力の充実による FD の活性化

- ①20 号館 1 階の「グローバルフォレスト」に設置する大型ディスプレイを活用し、教員による教育、研究、語学、多文化共生に関わるセミナーやイベントを実施する。また学内の施設や他学部などとも協力し、「国際」をキーワードとする学びの幅を大きく広げ、学部ひいては大学の活性化につなげる。
- ②引き続き、学部学科のホームページにおいて教員の研究や教育に関する情報の発信に努める。また教員の心身の健全に留意し、ワークライフバランスを実現すべく、管理運営業務の可視化と教員間の分担・協力、学内で開催されるハラスメント防止講習会等への参加を進め、『魅力ある授業づくり』に資する研究時間の確保に努め、研究力を高める。
- ③国際関係学部には所属する教員が自身の研究テーマを発表する機会を設け、ディスカッションを行うことにより、各自の担当科目の内容や教育法の向上、あるいは学部内における共同研究の可能性などをさぐり、学部の FD につなげる。

### (4) 人文学部

#### 1) FD・SD 活動の目標

人文学部では各学科の特性を生かしつつ、複雑化する現代社会の課題に応えることのできる「確かな学力」と「コミュニケーション能力」を兼ね備えた「あてにされる人間」の育成を目標とする。学生には学内および課外活動を通じて人と積極的に関わることで多様な視点を獲得し、主体的に考え行動できる力を身に付けさせる。また教員・学生間のハラスメントや合理的配慮についての認識を深めていく。

- ①高校と大学との連携を強化し、スムーズに大学教育への移行を図る。
- ②学生の主体性を育成するための『魅力ある授業づくり』の実現に向けて取り組む。
- ③学生と教員によるフィールドスタディを通じて春日井市を中心とした地域社会との連携を強化する。
- ④2023 年度からスタートした人文学部独自の「学内学科横断プログラムクロスオーバー SDGs プロジェクト」「7 学部間横断プログラム副専攻」等を含む SDG s 教育のさらなる充実と「人間力を育成する学問の総合化」を目指す新教育プログラムの実現化に取り組む。
- ⑤教員・学生間のハラスメント問題、および合理的配慮の提供に関する認識の強化を図る。
- ⑥教育・研究の場における AI の活用、そのメリット・デメリット、倫理の問題等についての理解を深め、AI 利用についての方針を立て学生・教員ともに共有を図る。

## 2) FD・SD 活動の計画

- ①各教員が学生ポートフォリオの活用をととして日々の学習態度に関する情報を共有し、学力向上・維持に向けた意見交換を図る。併設校を中心とした高大連携の強化および各学科にて初年次教育を細やかに実践し、かつ独自のピアサポーター制度を活用することにより、恵那研修代替行事等の行事をととして1年次から自己の将来像を意識させることに取り組む。
- ②『魅力ある授業づくり』に関し、学生・教員の「授業評価」への参加を向上させ自己の授業改善に努める。秋学期には、教育活動顕彰制度で表彰された教員の報告会を行い、意見交換を図る。
- ③自己点検・評価における全学的課題のうちの「シラバスと講義内容との整合性の検証」について、各学科で検証方法、および問題があった場合の対応方法を確立し、実施する。
- ④自己点検・評価における全学的課題のうちの「内部質保証体制の充実」について、毎年の自己点検・評価の書類を提出する前に学科間で客観的視点からチェックし合い、要改善点等の認識も織り込んで提出するようにする。
- ⑤従来の講義形式と学生に能動的な学修を求める参加型学習法である双方向型授業を組み合わせた授業や学科横断的な授業に取り組むこと。加えて必要に応じたオンデマンド授業（SDGs 学際専攻用など）の充実化を図るための情報交換を行う。学部所属教員全体に本学部および本学のFD・SD初年次教育関連の講演会・セミナー・研修会への積極的な参加を促す（新任教員の授業支援を図る）。
- ⑥障害者差別解消法及び改正障害者差別解消法による、不当な差別的取扱いの禁止及び合理的配慮の不提供の禁止が法的に義務化されるのに伴う情報共有や各種対応の検討を行う。

## 3) FD・SD 活動の実践に向けて

『魅力ある授業づくり』とは、「学生と教員が協同して行うもの」である。学生に興味を湧かせ将来役に立つ授業および教員にとって学生の成長を実感し、常に学生から感化を受ける授業を意識しながら、学生との日頃のコミュニケーションに基づき、学生にとってわかりやすい魅力ある授業づくりを推し進め、学部全教員はそれを実現できるようにFD・SD活動を行う。

## (5) 応用生物学部・応用生物学研究科

### 1) 応用生物学部 FD 推進委員会

#### ○委員会の開催

定期的に委員会を開催し、2022年度FD活動の評価点検、2023年度目標達成への活動推進、2024年度の活動目標の設定を行うほか、必要時にはメールにて審議・連絡を行う。

### 2) 学部 FD 活動目標・計画

- ①『魅力ある授業づくり』に関して、授業改善につながる学部内の報告会や意見交換会を計画する。特に、教育活動優秀賞を受賞した教員をパネラーとした討論の場を設け、授業改善に向けた情報共有を行う。
- ②『魅力ある授業づくり』に関して、学生による授業評価、教員による授業評価、およびコメントへの回答の回収率向上を具体的目標として学部全体で継続し、取り組む。
- ③『魅力ある授業づくり』に関して、各教員の授業改善に関する重点目標、および授業評価コメント一覧の良かったところ、改善点等を参考とし、自己の授業改善に努める。
- ④学部FD講演会を開催する。多様化する学生を支えるため、学生サポートや授業改善、

ICT 活用に関する講演会や意見交換会を開催し、各教員のスキルアップを目指す。

⑤各教員は、全学 FD 講演会その他の全学レベルの FD 支援活動に積極的に参加する。

3) 各学科（専攻）、研究科における FD 活動目標

学科会議、研究科委員会などを通して定期的に FD 情報（授業改善のための学生懇談会、授業アンケートなど学生の意見、FD 講演会その他の内容等）の交換・共有を行い、必要に応じ目標設定を行う。

(6) 生命健康科学部・生命健康科学研究科

1) FD 活動の目標

学部および大学院教育を通して、「健康・医療の分野で活躍する人材の養成」という学部の社会的使命達成のため、実践的な医学的知識・医療技術のみならず、医療人に相応しい「人間性」や、自ら学び周囲に働きかけることのできる「主体性」を備えた人材を育むことを目標とする。

2) FD 活動の計画等

- ①〔学部〕〔大学院〕学部・研究科教員全員を対象とした FD 研修会を開催し、教員の授業スキルの向上と授業の見直しの機会を用意し、教員の継続的な授業改善を促すことにより、『魅力ある授業づくり』につなげる。
- ②〔学部〕各学科の特色をいかした教育につながる、学科独自の FD 活動もあわせて実施する。
- ③〔学部〕入学後の早期から、医療や健康に関わる職種・業務に対する学生の理解を促す工夫を講義等に取り入れることにより、職業意識に基づいて主体的に学ぶ姿勢を備えた学生の育成を目指す。研修会では、本目標に向けた学科の取り組みを紹介する機会を設け、最新情報の共有を積極的に行うことで、学部内で協働して課題解決を目指し、教育の場にフィードバックしやすい環境を構築する。
- ④〔学部〕実習科目・演習科目においては、ルーブリック評価の導入とその継続的な見直しにより、技能面における学生の到達目標の達成を促す。
- ⑤〔大学院〕大学院特論等において授業評価アンケートを実施し、その結果を担当教員で共有することにより授業改善に役立てる。
- ⑥〔大学院〕パンフレット「研究の心得」を活用し、研究倫理に基づいて、より一層の教育・研究の内容を高める。
- ⑦〔学部〕〔大学院〕学部教職員の教育・職域ハラスメントに対する防止意識向上のための研修を実施する。
- ⑧〔学部〕〔大学院〕多様化する学生への教育支援について、理解を深めるための研修を実施する。

(7) 現代教育学部・教育学研究科

職員の研究教育活動、視野を広げるための FD・SD の活動計画の検討と具体化をすすめ、学部については FD・SD 講演会を年間 3 回をめぐりに実施する。学科の FD についても着実に進める。現代教育学部紀要 Vol.17 の発行、現代教育研究所紀要 Vol. 18 の発行に向けて取り組む。さらに現代教育研究所紀要 Vol. 19 の発行準備を進める。関連して FD・SD 委員会規定の検討を進める。

(8) 理工学部

FD 講演会、FD フォーラム、FD カフェ等に積極的に参加し、『魅力ある授業づくり』を理解し着実に実行するための組織的サポートを行う。

- 1) 「中部大学教育活動顕彰制度 受賞者による講演会」を開催し、受賞者より「魅力ある授業づくり」について講演頂き、各教員の『魅力ある授業づくり』の一助とする。
- 2) 「魅力ある授業づくり」に相応しい話題を見つけ、工学部FD講演会として随時開催する。
- 3) 全学公開授業、授業サロン、FDカフェ、キャリアアッププログラムなど、学内で開催されるセミナー等への参加を強く推奨し、理工学部内での情報共有を図り、各教員の「魅力ある授業づくり」の一助とする。
- 4) 「CU ルーブリックライブラリ」「Cumoc」を積極的に活用し、授業に反映させ「魅力ある授業づくり」に努める。

#### (9) 人間力創成教育院

人間力創成教育院設置の理念の下、教育院のFD活動の継続的推進を図る。各EPが担当する科目の教育内容・教育理念に関して、懇談会・研修会を通して教員間の共通理解の形成を図る。さらに『魅力ある授業づくり』等に向けての取り組み(例えば、授業方法の改善、学生による授業評価、教員による授業自己評価の実施率を高める等)のための学外の研修会や教育関連学会への参加等の各種方法についても検討する。

さらには各EP担当科目やSDGs教育科目の『魅力ある授業づくり』のための改善(授業方法・授業内容・体制・施設・設備等の改善・充実と学外の研究会・ワークショップへの参加によるスキルアップ等)をより一層図るとともに、科目の精選に関する考察を深める。

また、文科省中教審で計画的展開が要請されている「高大連携・接続」の一環として、本学が進めている併設高校との高大連携授業では教育院が担当する部分が多く、関係教員とのFD活動を通じて、本学にとっても高校(生)にとっても『魅力ある授業づくり』を検討する。

#### (10) 国際人間学研究科

##### 1) FD 活動の目標

- ① 構成員の専門分野が社会科学・人文科学に跨る多彩な学問領域であり、学生も様々な国籍・年齢層にわたるため、研究会・発表会などを通じて互いの専門分野についての理解を深め、多角的視点から専攻を越えた教育・研究指導を行える環境を育む。
- ② 専門力に加えて、高度な俯瞰力や豊かな人間性を備えたリーダー人材の育成を目指した「持続社会創成教育プログラム」を活用し、多様な学生の目標に応じた教育を実践する。
- ③ 学外の研究者や地域との交流による研究・教育能力の向上を図りつつ、学生の要望や意見もくみ上げながら「魅力ある授業」をつくりあげていく。
- ④ 様々な文化背景をもつ学生が所属することから、著作権・肖像権・個人情報保護等、研究倫理に関わる事項について、まず教員が正確な知識を身につけ、これらの侵害がないよう指導を徹底する。

##### 2) FD 活動の計画

- ① これまで継続的に実施してきた研究科の所属教員による研究報告会(年2回)、学生とその指導教授による研究報告会(年2回)を開催するとともに、機関誌『Glocal』の特別号を刊行し、教員間・学生間の相互理解や交流を深める。
- ② 学外から専門家・識者等を招き、シンポジウムや講演会などの形態をとりながら、教育・研究の向上に資する知識・情報・ノウハウの吸収に努める。
- ③ 国際関係学、言語文化、心理学、歴史学・地理学の各分野、また、それらを横断的につな

いだ分野でのシンポジウムや講演会の実施を促進し、その成果を「魅力ある授業づくり」に活かしていく。

④国際人間学研究所が推進するプロジェクトと連携し、学生の研究活動を支援するとともに、研究科としての社会連携・地域連携をさらに推進する。

⑤上記の計画を実現するためにFD活動への積極的な参加を促す努力を継続し、研究科全体のFD意識を向上させる。

#### 4. 2024年度のFD活動の取り組み

##### 4.1 全学の取り組み

2024年度の全学としての取り組みは、大学企画室高等教育推進部のWebサイトに詳細が掲載されている(<https://www.chubu.ac.jp/about/university-activities/university-education/>)。主な取り組みは、(1) 教員による教員活動重点目標の設定および自己評価 (2) 授業改善の取り組み (3) FDフォーラム・講演会 (4) キャリアアッププログラム・FDに関する研修会等 (5) FDカフェ (6) 出版物 (7) 教育活動顕彰制度 (8) 中部大学『魅力ある授業づくり』プログラムの実施 (9) FDオンデマンド講義(全国私立大学FD連携フォーラム実践的FDプログラム)の提供 (10) FD・SD研修会 (11) SDカフェ等である。

なお、これらの現状と評価を記述する。

##### (1) 教員による教員活動重点目標の設定および自己評価

近年の内部質保証の観点から、教育のみならず研究、社会貢献、学内行政等についても評価・点検の実施、および改善向上が教員には求められている。このことを反映して、「教員活動重点目標・自己評価シート」では上記の4つの責務(教育・研究・社会貢献・学内行政)について、年度初めに各教員が教員活動重点目標を設定し、年度末に自己評価を行っている。2018年度から大学設置基準上で教員と区分される助手(教育・研究の補助を主たる職務とする)も対象とし、これを機に全学部共通のレイアウトに変更となった。2024年度の目標設定者は在籍教員の該当者496人中482人(未提出者16人は、欠勤等により提出できない者)、自己評価提出者は目標設定者482人中471人(未提出者11人は退職、欠勤等により提出できない者)であり、提出が求められる全ての教員が提出した。

##### (2) 授業改善の取り組み

『魅力ある授業づくり』のための主な取り組みとして、以下の7つに取り組んできた。

###### 1) Webによる「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」

「授業評価」の学生の回答率は、春学期32.4%(昨年度は37.4%)、秋学期28.0%(昨年度は31.4%)であった。自由記述においては、春学期3,066件(3,568件)、秋学期2,375件(2,358件)であった。学生の回答率については、コロナ禍以前の水準に戻った印象である。一方で、自由記述件数はほぼ同じ件数で推移しており、引き続き中身の検討が重要である。

一方、教員の自己評価回答率は、春学期66.9%(昨年度64.9%)、秋学期66.3%(昨年度64.1%)であった。さらに、コメント率は、春学期64.9%(昨年度64.0%)、秋学期64.9%(昨年度62.6%)であった。教職員に対する積極的な呼びかけが奏功して、ここ数年のスパンで見るといずれの率も増加傾向にあり、特に専任教員における増加が顕著である。

###### 2) 携帯電話を活用したクリッカーシステムの提供(授業改善アンケートシステム)

携帯電話やスマートフォンを活用して、授業中に教員がネット環境を使える場所であれば



学生の反応を瞬時に把握できる本学独自のクリッカーシステムである「Cumoc（キューモ：Chubu University Mobile Clicker）」を導入して 15 年目となる。2011 年 7 月には、利用の研修を行う目的で「CumocL」を整備し、同システムを活用して 2013 年 4 月に一般的なアンケートシステムとして学内に提供を開始した。また、2017 年度より、それぞれの設問間のクロス集計が可能になるよう改善した。

なお、「授業改善アンケート（Cumoc の利用を含む）」は、春学期 63 件、秋学期 118 件で合計 181 件（2023 年度 194 件）の利用であった。オンライン授業が浸透して以降、多様な ICT ツールを利用できる中で当該アンケートシステムもそれらのうちの一つとして選択されていることが分かる。

### 3) 授業改善ビデオ撮影支援制度

授業改善ビデオ撮影支援制度は、授業担当者からの希望による振り返りのための教育支援として撮影提供しており、2024 年度は 14 件（2023 年度 13 件）であった。

### 4) 授業のオープン化制度

授業担当者に申し出ること、他の教員が授業を参観できるシステムであり、後述の「全学公開授業」「授業サロン」もこの趣旨を基に実施している。

### 5) 全学公開授業

2024 年度は「全学公開授業」を 4 件（2023 年度 3 件）実施し、41 人の教職員の参加があった。この公開授業は実施者および見学者双方に授業改善のヒントが得られる取り組みである。

### 6) 授業サロン

「授業サロン」では、専門が異なる学部を越えた 5 人の教員による授業見学とピアコンサルティングが行われる。2024 年度は、春学期、秋学期にそれぞれ 1 グループの実施であった。メンバー構成として、若手と中堅教員に加えて教育活動優秀賞の受賞者を迎え入れる方法を採用した。また、フリーアナウンサーの稲葉寿美客員教授には 2023 年度から引き続き参加してもらい、特に話し方についてのアドバイスを頂いた。

### 7) CU ルーブリックライブラリ

教育の質保証を目指す上での成績評価方法の 1 つであるルーブリックの「蓄積」から「共有」、そして「作成支援」に繋げることを目的として、2016 年 3 月から運用を行っている。2024 年度には 3 件の新規登録があった。

## (3) FD・SD フォーラム・講演会

以下の 2 件の講演会を本学入学センターとの共催で開催した。

### 1) 第 62 回 FD・SD 講演会

テーマ：「2025 年度学生募集に向けて」※理系学部を中心とした内容

日 時：2024 年 6 月 20 日（木）17 時 10 分～18 時 40 分

講 師：近藤 治（学）河合塾 教育研究開発本部 顧問

小林 リサ（株）KEI アドバンス 名古屋営業グループ 課長代理

参加人数：145 名

### 2) 第 63 回 FD・SD 講演会

テーマ：「2025 年度学生募集に向けて」※文系学部を中心とした内容

日 時：2023 年 6 月 24 日（月）17 時 10 分～18 時 40 分

講 師：近藤 治 （学）河合塾 教育研究開発本部 顧問

小林 リサ （株）KEI アドバンス 名古屋営業グループ 課長代理

参加人数：128 名

#### （4）キャリアアッププログラム・FD に関連する研修会等

2009 年度から開催してきた「教員キャリアアッププログラム」は、教員の授業スキルを含めた「授業改善」に関連したプログラムはもとより、「ICT（情報技術）」や「学生への対応」など幅広い目的をもつワークショップである。教職協同のプログラムとして、職員も参加し実施してきた現状を踏まえ、2017 年度から、「キャリアアッププログラム」と名称を変更し実施している。

2024 年度は 9 回開催した（2023 年度 9 回）。大学企画室客員教授による「授業技術（話し方）」（4 回）、「授業デザイン」（2 回）、「学生への対応」（2 回）に関するプログラムをはじめ、学内講師を招いた「学生への対応」に関するプログラム（1 回）を実施した。開催方法については、講師の意向や実施内容を考慮して、対面およびライブ発信形式を柔軟に使い分けた。後者のライブ発信の場合にも、グループ討論・作業を積極的に採り入れることにより、参加者間の交流やプログラム内容の習得を対面時とほぼ変わらないレベルで行えるよう企画した。

また、今年度は年度初めに新任教員説明会を実施し、副学長、教務部長、学生部長、高等教育推進部長から、授業担当、学生指導、研究倫理、FD 活動の概要を説明している。

#### （5）FD カフェ

FD カフェは、教職員による自由な意見交換の場である。大学教育に関するさまざまなテーマ、学生と直面している必要な知識などの実践的なテーマに関して自由に意見を交わすことで情報やスキルを共有する場を提供することを目的として開催されている。2024 年度は春学期に 1 回開催し（2023 年度は春学期・秋学期に各 1 回開催）、新規採用者向けのスタートアップ企画を行った。

#### （6）出版物

『教育・研究活動に関する実態資料』及び『中部大学教育研究』を刊行している。前者は、様々な基礎データを集約し、学内各種制度や対外的な申請や審査の基礎資料として、また大学の情報公開のための基礎資料として活用されている。後者は、1979 年より刊行されてきた『教育資料』を充実させ、新時代の大学教育の理念・手法・改善策などを論じ合う場を提供するものとして、教育改善・質的向上に役立てることを目的に 2001 年から刊行している。

教員の情報共有の場ともなっており、特に研究論稿は教育研究の分野でも数多く引用される実績を有している。『中部大学教育研究』No.17 から論文の投稿区分を見直し、要約・キーワード・英文タイトル等の追加、およびレイアウトの変更と、編集・投稿要項を改訂した。2023 年度は、No.24 として一般投稿 11 編を掲載発行した。

#### （7）教育活動顕彰制度

2008 年度より学部における評価項目の重みを増加し、また個人だけでなく団体、グループに対しても表彰できる特別賞を取り入れた「教育活動顕彰制度」を導入し、毎年前年度の教育活動について表彰している。2017 年度に、中部大学教育活動顕彰制度における教育活動優秀賞の

4 回目の受賞者に対して「教育活動金虎賞（きんとらしょう）」を制定し、2023 年度受賞者が 4 人あった。その金虎賞を含め、2023 年度の「教育活動優秀賞」は 11 人（2022 年度 16 人）であったが、「教育活動特別賞」の該当はなかった。実施要項、選考総評等は Web で公開されている。

#### (8) 『魅力ある授業づくり』プログラム

すべての教員（特に教育歴の少ない教員や新たに本学に赴任する教員）が持続的に教育力の向上を目指すことを勧奨し、FD プログラムへの積極的な参加を奨励するために、FD・SD 委員会が主催している FD プログラムを活用して規定の要件を満たしたものに対して、本プログラムの修了証を授与している。修了の要件については、リーフレットや Web 上で公開されており、3 年間の間に授業サロンまたは全学公開授業実施を必須としたポイント制をとっている。2024 年度には 4 人の教員に修了証を授与した。本学の特徴ある FD プログラムへのさらなる積極的な参加を促すきっかけになることが期待される。

さらに、2024 年度からは、本プログラムを基盤として新任教員の教育力向上を志向した、「新任教員向け FD プログラム」を新たに開始した。

#### (9) FD オンデマンド講義（全国私立大学 FD 連携フォーラム実践的 FD プログラム）

FD オンデマンド講義は、本学が加盟している全国私立大学 FD 連携フォーラムが運営している実践的 FD プログラムを活用したものである。同プログラムは、毎年 4 月に視聴希望者を募り、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察できる知識、技能、態度、アクティブ・ラーニングを実践する能力を修得するプログラムである。2024 年度は 20 人が受講した。引き続き、啓発の機会として活用されることが期待される。

#### (10) FD・SD 研修会

2017 年 4 月 1 日に施行された大学設置基準において、全ての大学に SD (Staff Development) が義務付けられたことを受けて、FD・SD 研修会を SD 研修の機会として位置づけ、全教職を対象に以下の研修会を実施した。

テ　　マ：『合理的配慮の基本的な考え方と授業等における変更・調整の実際』

日　　時：2025 年 2 月 17 日（月）15 時 30 分～17 時 00 分

講　　師：近藤　武夫　東京大学先端科学技術研究センター　社会包摂システム分野　教授  
オンデマンド配信期間：2025 年 2 月 26 日（水）～3 月 14 日（金）

専任教職員の参加状況は、「当日参加」が 123 人、「オンデマンドでの後日参加」が 342 人、参加率は 62.6%であった。

#### (11) SD カフェ

SD 研修の一環として、気軽に参加でき、知識・技能の習得だけでなく教職員・組織間の交流を図ることを目指した「SD カフェ」を企画し開催した。

テ　　マ：『合理的配慮について「実際に何ができるのか」を考えよう』

日　　時：2025 年 2 月 27 日（木）14 時 00 分～15 時 30 分

講師（ファシリテーター）：伊藤　守弘　学生サポートセンター長  
津田　聡子　学生サポートセンターコンシェルジュ  
可児　由香　学生サポートセンター事務課長

参加人数：10 名

## 4.2 学部・研究科での取り組み

### (1) 工学部・工学研究科

工学部の教員の『魅力ある授業づくり』に関する意識およびスキルを向上させるための FD 活動を推進する、という目標に基づき、多くの教員が取り組みを行った。

- 1) 工学部都市建設工学科の教員を講師として、防災・減災に関するセミナーを2回に亘り、開催した。
- 2) 中部大学教育活動顕彰制度の受賞者を講師として、FD 講演会を開催し、工学部・理工学部ファカルティルーム(7号館3階)から Zoom 配信およびオンデマンド配信を行った。
- 3) 株式会社リバネスより講師を招き、外部資金獲得に向けた方策についての FD 研修会を開催した。

### (2) 経営情報学部・経営情報学研究科

2024 年度は、『魅力ある授業づくり』を行い、学部・大学院教育の質を向上させるための様々な議論を主任会議、学部教務委員会、資格委員会などにて行ったほか、学部構成員全員を対象とする FD 関連行事を数度実施し、多くの教員の参加を得た。2024 年度は初年次教育の充実、授業における ICT 活用の2つを主なテーマとし、その他、教員の教育能力・資質向上のための FD 講演会を実施している。主な活動実績は以下の通りである。

#### 1) 初年次教育の内容ならびに指導の向上に向けて

初年次教育の内容ならびに指導の向上に向けて、FD 関連行事を実施したほか、主任会議の場で、スタートアップセミナー不合格者についての意見交換を行うなど、新入生への学生指導体制の確認・強化を行った。

##### ・入学前教育プログラムに関する FD 活動（報告会）の実施

2024 年 4 月 17 日（水）17 時から学部全教員を対象に入学前教育実施報告会を実施し、その年の新入生の特徴や課題などについて共有した。同時に、スタートアップセミナー担当教員に入学前教育の個人データを配布し、学生指導に活用することとした。

##### ・スタートアップセミナー意見交換会の実施

2024 年 7 月 17 日（水）の 16 時 30 分より、スタートアップセミナー担当者を対象に意見交換会を実施した。この会では、今年度のスタートアップセミナーの講義内容や、今後の指導内容について意見交換を行うとともに、翌年度の取り組みなどについての議論を行った。

#### 2) 授業改善のために

教員の教育改善のための勉強会の一環として、「輪講型授業、アクティブラーニング、反転授業のいいとこ取り」というテーマで白川教授による講演会を実施した。

#### 3) 就職支援について

近年状況が大きく変化している学生の就職や就活状況について情報を共有し、学生の就職活動に対して教員が果たすべき役割について考えるため、キャリア支援課長の佐久間氏をお招きして、講演会を実施した。

#### 4) その他

教員の教育能力・資質の向上のため、上記の FD 講演会の他、産業経済研究所との共催による講演会(11 月 27 日（水）、「デジタル化による産業構造の変化とビジネスモデル革新」)、学部主催海外研修「シリコンバレー研修実施報告会」などを実施した。

### (3) 国際関係学部

本学部が重点を置く以下の項目に関して、「実施方法の改善、留意点」などに関する情報共有を促進していくことで、『魅力ある授業づくり』に資する内容のFD活動を行った。

- 1) 低学年向けの演習系科目（スタートアップセミナー、国際基礎演習、国際応用演習A・B）に関しては、学年・学期ごとに「コーディネーター」としてまとめ役を決め、授業の事前と事後のフォローアップを担当者全員で行い、学生の学習状況の把握に努めるとともに、成績評価基準の統一および改善点を担当者間で共有し、次年度に引き継げるよう整理した。またコーディネーターを持ち回りにすることで、すべての教員が科目内容の改善や質の向上に参加するようにした。
- 2) 本学部が多ディシプリンの専門領域を持つことに鑑み、「卒論閲覧会」を開催し、教員間に共通の意識を醸成した。また、2022年度に制作した卒論評価ルーブリックにつき、卒業研究担当者がその有効性について検討し、指導法の改善に活用した。
- 3) 新装成った20号館1階ラウンジにおいて計4回の「国際サロン」を開催し、教員間で国際関係学部における学問領域の多様性を再確認するとともに、それを活かした授業のあり方について考える機会とした。
- 4) 計2回のアカデミックイベントを開催し、国際関係学部における3年・4年次の教育のあり方について再考した。内容は卒業論文の中間発表会と、学部所属学生が主体となって行った各ゼミナールの紹介である。
- 5) 20号館1階ラウンジでの放映や学部HPで公開する動画を制作した。教員の紹介動画では研究テーマや地域、学生の紹介動画では学部所属学生のさまざまな活動をそれぞれ取り上げ、ラウンジを訪れる学内外の方々に国際関係学部における学びの一端を知って頂くとともに、今後の国際関係学部について、教職員と所属学生がともに考えを巡らす場ともなった。
- 6) 教職員のワークライフバランスや職場環境の整備・充実を考慮し、各種委員など教員の学務担当を視覚化して負担の均等化を目指すとともに、各種ハラスメントに関する啓発活動の一環として、オンデマンド方式によるハラスメント研修を実施した。

### (4) 人文学部

- 1) 2024年度の人文学部FD・SD委員会（2024年5月・2025年3月）では、同年度の人文学部FD活動の内容を中心に、2024年度FD活動評価点検・実績報告書、2025年度FD活動推進計画書などを検討した。また各学科では、それぞれ学科に沿ったFD活動を積極的に企画して取り組んだ。
- 2) 2024年度春学期に外部講師を招聘し、「セクハラ防止講演会」を開催した。
- 3) 2024年度春学期にAI数理データサイエンスセンター教員によるAI利用についての講演会を開催した。

ディープラーニングの原理から、AI進歩の概観について学び、さらに大規模言語モデルを応用した授業支援アプリについて紹介された。AIアプリの使用によるさらなる授業改善や学生指導についてディスカッションがなされた。

- 4) 2024年度秋学期に現代教育学部教員による「特別支援教育の視点から考える授業改善・学生指導」についての講演会を開催した。

小中高校までの特別支援教育の対象、施策、現状について説明があり、従来の教員にとって「困った」学生ではなく、学生が「困っている」という発想の転換の必要性が講義された。講義内のワークショップで具体的な事例についてディスカッションを行い、合理的配慮が必

要な学生への対応についての理解を深めた。

#### (5) 応用生物学部・応用生物学研究科

2024 年度は主に以下の内容について、学部 FD 推進委員会、教授会、学科・専攻会議で FD 活動に取り組んだ。

##### 1) 学部 FD 推進委員会の開催（4 回）

適時、委員会を開催し、主に FD 活動推進計画案、FD 活動評価点検報告書案の作成と活動の推進を行なった。

①2023 年度学部 FD 活動の総括。

②2024 年度教育活動顕彰制度優秀賞の学部評価項目・ポイント、自他による総合評価法の点検。

③FD 講演会の計画、運営。

④2025 年度 FD 推進計画案を作成。

##### 2) 学科・専攻単位での FD 推進（適時）

学科及び専攻に固有の FD 課題を抽出し、検討を行った。特に、単位取得数不足、学生生活に適応できていない学生を早期に把握し、教員間で情報共有を行い、対策を行った。

##### 3) 学部 FD 講演会（年 1 回）

大学のウェブページは学生募集において欠かすことのできないツールである。個々の教員が学部・学科の魅力を高めるようなウェブページを作成できるようになると、学生募集だけでなく、授業資料配布や研究成果発表などにも活用できるようになる。最近中部大学のウェブページ作成システムが変更され、多くの教員がその利用方法を改めて学ぶ必要に迫られている。そこで、勉強会を開催し、ウェブページを作成する技術の向上を図った。

① 教員サイト(ウェブページ)作成勉強会（2024 年 5 月 29 日および 6 月 20 日）

講師：鈴木孝征（応用生物学部・応用生物化学科・教授）

教員サイトの新しい管理システム(Wordpress)の使い方を覚え、学生募集・授業資料配布に活用できるようにする。

#### (6) 生命健康科学部・生命健康科学研究所

本学部の FD 活動推進計画に掲げた、「①教員の授業スキルの向上と授業の見直しの機会を用意し、教員の継続的な授業改善を促す」こと、また「③学科の取り組みを紹介する機会を設け、最新情報の共有を積極的に行う」ことの一環として、AI の教育活用をテーマとして、生命健康科学部第 1 回 FD 研修会「AI で広がる医学教育の可能性 ～教育現場に生かすはじめての一步～」を開催した。AI を活用した医学教育の実践に取り組んでいる学部教員から、教育の質向上と教育業務の効率化を両立させるための様々な試みをご紹介頂いた。参加者の関心も高く、活発な質疑もあり、授業や教育業務の改善への一助となる情報を共有できた。

また、FD 活動推進計画⑧、「多様化する学生に対する教育支援に関する理解を深めるための研修を実施する。」にあわせた取り組みとして、保健看護学科および生命健康科学研究所保健看護部門が企画主体となり「生命研健康科学研究所セミナー：大学新入生の孤独・孤立を理解し、組織的介入の在り方を探る」や「看護セミナー」など複数の企画を開催した。

FD 活動推進計画②、「各学科の特色にあわせた教育につながる、学科独自の FD 活動もあわせて実施する。」ことを目的として、今年度も各学科毎に多様な企画を実施した。

#### (7) 現代教育学部・教育学研究科

FD&SD 委員会の取り組みとして、主に3つのことを行った。

第1に、学部のFD&SD講演会の企画と実施である。これについては、廣田直子准教授（幼児教育学科）による講義「若い世代のためのプレコンセプションケアについて」、長谷川元洋氏（金城学院大学国際情報学部教授）による講演「学生と大学のソーシャルネットワークサービス（SNS）の利活用に関わる情報モラル教育」、清重隆信氏（国立特別支援教育総合研究所理事）による講演「現代における特別支援教育の課題と展望」（現代教育学研究所と共催）を開催した。

第2に、紀要の編集・発行による研究活動の推進である。これについては、現代教育学部紀要（第17号）の編集・発行、現代教育研究所紀要（第18号）の編集と発行をそれぞれ計画通りに進めた。

第3に、図書の整備である。これについては、FD&SD活動の研究的・実践的基盤と位置づけ、物価高騰の中で縮減せざるを得なかったものの計画通り着実に進めた。

#### (8) 理工学部

理工学部の教員の『魅力ある授業づくり』に関する意識およびスキルを向上させるためのFD活動を推進する、という目標に基づき、多くの教員が取り組みを行った。

- 1) 工学部都市建設工学科の教員を講師として、防災・減災に関するセミナーを2回に亘り、開催した。
- 2) 中部大学教育活動顕彰制度の受賞者を講師として、FD講演会を開催し、工学部・理工学部ファカルティルーム(7号館3階)からZoom配信およびオンデマンド配信を行った。
- 3) 株式会社リバネスより講師を招き、外部資金獲得に向けた方策についてのFD研修会を開催した。

#### (9) 人間力創成教育院

人間力創成教育院では、EP内でFD活動で全学共通教育科目の『魅力ある授業づくり』のために、授業の教授方法、内容、体制、施設、設備の改善と充実、さらに学外での研究会やワークショップへの参加によるスキルアップを実施した。中部大学において魅力ある教育プログラムはSDGs学際専攻である。SDGsの国連での活動は2030年度に終了するため、ポストSDGsの世界はどのようなものになるか外部の専門家を招いて講義をしていただいた。

#### (10) 国際人間学研究科

- 1) 教員研究会と院生研究発表会（「院生の力」）の開催

これまで継続して実施してきた教員研究会（発表者計4名）と院生研究発表会「院生の力」（発表者計6名、コメンテーター計6名）をそれぞれ年2回開催し、教員間・学生間の相互理解や交流を深めるとともに、教員の教育・研究力の向上に努めた。2024年度は、講演会・シンポジウムなどは企画されなかった。

- 2) 報告書等の発行

国際人間学研究科のアカデミック広報誌『GLOCAL』（Vol.25 Special Edition）と院生の研究誌『国際人間学フォーラム』 No.20の編集・発行に教員と院生が協働で取り組み、教員の教育・研究力の向上に資するとともに、院生への実践的な教育の場が提供されている。

### 4.3 2024年度のFD活動の取り組みの傾向

2024年度の本学のFD活動件数を、目的別、対象別、および内容形式別にまとめたものが次

の3つの表である。なお、2013年度以降、「会議」や「打ち合わせ」は当該データから除外している。

2024年度の活動件数は表2.1にて162件、また表2.2にて133件であった。年度によって多少の増減はあるものの、全学のみならず各学部や学科での活動が活発かつ継続的に為されている。さらに、表2.2に示すように、学生を含む活動件数については、今年度も54件と過去数年における件数を維持しており、教職員と学生が一丸となったFD活動が定着していることが伺われる。

表 2.1 目的別にみた FD 活動（件数）

目的	2024 年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度
授業・教授法の改善	74	73	98	72
教員資質向上のための研究交流	71	56	70	73
FD 活動企画・運営	17	30	39	35
	162	159	207	180

表 2.2 FD 活動の対象別にみた FD 活動（件数）

対象	2024 年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度
全学対象	63	56	59	56
学部・研究科対象	27	28	23	32
学科・教育科対象	43	37	65	43
	133	121	147	131
* 表 2.2 のうち、非常勤講師を含む	40	36	40	47
* 表 2.2 のうち、学生を含む	54	50	58	48

表 2.3-1 形式別にみた FD 活動（件数）～2021 年度まで

内容形式	2024 年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度
研修会・懇談会	—	—	—	24
講演・報告会	—	—	—	60
ワークショップ・セミナー	—	—	—	23
制度・システムなど	—	—	—	28
				135

表 2.3-2 形式別にみた FD 活動（件数）～2022 年度から

内容形式	2024 年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度
講演・報告会形式	83	61	65	—
ワークショップ形式	36	39	38	—
制度・システムなど	19	23	41	—
	138	123	144	

※ 上記の3表の合計件数は、重複項目があるため、一致しない。



## 5. FD 活動に関する学外との連携

### 5.1 全国私立大学 FD 連携フォーラムでの活動

全国私立大学 FD 連携フォーラム（略称 JPFF）は、中規模以上の私立大学間での FD 分野における連携を目的として 2008 年に発足された。本学は 2012 年に JPFF に加盟し、その後 2020 年 6 月から地域担当幹事校、さらに 2021 年 6 月からは代表幹事校を担当した。2024 年度は、以下の会議、シンポジウムに参加した。

#### 1) 2024 年度 幹事会・総会

日時：2024 年 6 月 15 日（土）12：00～14：00

場所：龍谷大学 深草キャンパス

形式：対面開催

#### 2) 2024 年度 シンポジウム

日時：2024 年 6 月 15 日（土）14：00～16：45

場所：龍谷大学 深草キャンパス

形式：対面とオンラインによるハイブリッド開催

テーマ：学修者本位の教育の実現

ー学生参画の観点からー

#### 3) 2024 年度 ミーティング・懇談会

日時：2025 年 1 月 22 日（水）13：00～16：50

形式：オンライン開催

## 6. FD 活動に関する課題と今後の計画

以下の 2 点に注目して、2024 年度における課題と今後の計画をまとめた。

### ・新任教員向け FD プログラムの進捗状況

4.1.にて記したように、2024 年度より、新任教員の教育力向上を志向した「新任教員向け FD プログラム」を新たに開始した。修了要件として、就任後 3 年間のうちに各種 FD プログラムへの参加を通して 11 ポイント以上を取得することと定めている。すでに、10 ポイント近く取得している教員も複数おり、本プログラムは新任教員から概ね好意的に受け止められている。今後は、このプログラムの価値をより高めるため、ポイント対象となる FD 活動のレベル向上や内容精選に加えて、修了者へのインセンティブの導入なども検討していく必要がある。

### ・FD・SD 活動の参加率向上に向けた取組み

前回の認証評価では、本学における FD・SD 活動の参加率向上の必要性が指摘されている。これまでも、ハラスメントや合理的配慮を扱った講演会・研修会においては、学長からの強い参加要請もあり、高い参加率を記録した事例はあった。一方で、こうした参加率を継続的に維持するための、FD・SD 活動に対する全学的な意識の醸成には、なお課題が残っている。例えば、ほぼ全教職員が出席する教職員総会の場合を活用するなど、FD・SD 活動に関する情報共有や意見交換を本学構成員全体で行える機会の創出が求められる。